

# まずな

KIZUNA

6 2021年  
令和3年

特集 男女共同参画

互いに認め、  
支え合える社会へ



## INDEX

- 2 「周りのひとへ甘える勇氣」  
竹下 佳江さん (ヴィクトリーナ姫路 球団副社長)
- 3 「誰もが本能的に持っている「アンコンシャス・バイアス」」  
江口 露美さん (株式会社電通 ソリューションプランナー)
- 4 「男性の育児休業について考えることは、家族像を描くこと」  
筒井 八恵さん (コネヒト株式会社 企画戦略室 助産師)
- 5 「生活困難地域で母親を支える」  
村上 靖彦さん (大阪大学大学院 教授)
- 6 「シングルマザーと子どもの居場所「WACCA(わっか)」」  
茂木 美知子さん (代表)
- 7 トピック「早期発見・早期治療！」  
伍代 夏子さん (歌手)
- 8 情報ぶらざ



兵庫県では「ひょうご男女いきいきプラン2025」を策定し、女性に選ばれる活力ある兵庫を目指して取組を進めています。一方、コロナ禍において女性の貧困や自殺の増加などが問題となっており、県では安心して生活できる環境整備にも取り組んでいます。

本号では、男女がともに、いつでも、どこでも、いきいきと生活できる男女共同参画社会の実現について考えてみましょう。

ひょうご男女いきいきプラン2025

検索



## 特集 男女共同参画

# 周りのひとへ 甘える勇氣

ヴィクトリーナ姫路  
球団副社長  
竹下 佳江 さん



### プロフィール

元バレーボール女子日本代表。1996年VリーグNECレッドロケッツに入団。2000年、シドニー五輪出場を逃し一線を退くも、2002年にJTマーヴェラスに入団し、日本代表にも復帰。2012年、ロンドンオリンピックでは悲願の銅メダル獲得に貢献。2016年日本初のプロチーム、ヴィクトリーナ姫路の初代監督に就任し、2019年にはチームを国内最高峰のV1リーグに昇格させる。2020年監督退任後、現在は株式会社姫路ヴィクトリーナの球団副社長に就任。結婚・出産を経て、バレーボール教室指導者や解説者としても活躍中。

2012年ロンドンオリンピックバレーボール日本代表セッターとして28年ぶりとなる銅メダル獲得に貢献され、現在は兵庫県姫路市を拠点とするプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」の球団副社長で、2児の母でもある竹下さんにお話を伺いました。

**Q** バレーボールを始めたきっかけは

**A** バレーボールを始めたのは小学校3年生の時。とても上手でカッコ良かった3つ上の姉の影響で始めました。

姉の通うスポーツクラブで最初はボール拾いから参加させてもらい、その後、入部しました。

**Q** 選手時代の思い出は

**A** 一番の思い出は、ロンドンオリンピックでの銅メダルです。当時はチーム力、関わってくれた全ての方の力などのバランスに加え、チームワークが良かったことが、銅メダル獲得につながったと思います。バレーボール選手としては身長が

低かったのとにかく結果を求め周りを認めさせたい、それと同時に応援してくれる人たちへ活躍している姿を届けたいと思いプレーをしていました。

**Q** 仕事と子育ての両立

**A** 仕事と子育ての両立は並大抵のことではありません。そこでまず、子ども、夫、自分のスケジュールの管理を徹底しました。スケジュールの調整ができないときには、両親や周りに助けをもらい、乗り越えました。また、いろんな情報に耳を傾け参考にしました。

ありがたいことに私の周りには助けてくれる方がたくさんいました。一人で仕事と子育てを抱え込むのは大変なことですので、周りの方へ甘える勇氣を持つことが大切だと思います。

**Q** 女性選手が活躍するために必要なこと

**A** 女性選手が活躍するためには、本人がどうしたいかという思いとともに、周りの理解が一番必要だと思

**Q** 今後の抱負

**A** 子どもとの時間を大切にしながら、バレーボール、スポーツの魅力発信していけたらと思います。

**Q** 県民のみなさまへ

**A** コロナ禍で自由を制限される日々ですが、前向きに笑顔で過ごしていきたいですね！

ヴィクトリーナ姫路も皆さまに元気を届けられるよう頑張りますので、ご声援よろしくお願いたします。

ヴィクトリーナ姫路

<https://www.victoria-vc.jp/>



# 誰もが本能的に持っている 「アンコンシャス・バイアス」

株式会社電通  
ソリューションプランナー 江口 露美 さん

最近よく耳にするようになった「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」。日本社会では女性活躍を阻むとされていたり、セクハラやパワハラ、人権侵害と同様に「なくすべきもの」として扱われていることをよく見かけます。そう言い切ってしまうことにも課題はあるかもしれませんが。

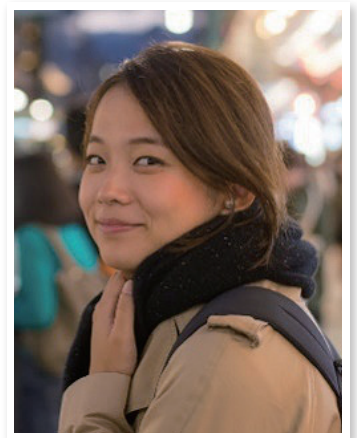
## 「アンコンシャス・バイアス」は完全な悪なのか？

ひとつの例を挙げましょう。子どもがいる女性社員に対して、上司から「お子さんがいるから、出張は他の人をお願いするね」という光景。これには「子どもがいる人は出張したくないはず」という上司のなかにある「きつとこつだろ」というアンコンシャス

ス・バイアスが存在しています。しかし、これは同時に「育児が大変だろうから」という思いやりや気遣いから発せられた言葉であることも想像ができません。もし、アンコンシャス・バイアスを全て「悪いもの、なくすべきもの」とした場合、この上司は「相手の家庭環境やその中での都合など特に考慮せずと同じ指示を出す」のが正しいことになってしまいます。

## 「あって当たり前」なものとの付き合い方

我々が本心に改善すべきことは、「アンコンシャス・バイアスを持っていること」ではなく、「お互いのアンコンシャス・バイアスの可能性に気づかないままコミュニケーションを終わ



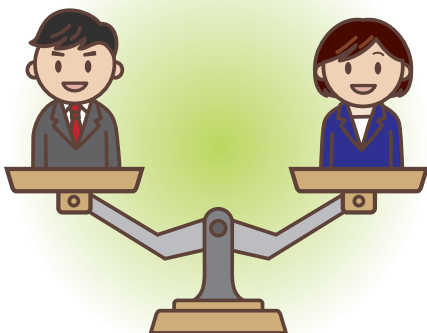
## プロフィール

2012年電通入社。人事局で採用広報戦略、選考プランニング、クリエイターの人材発掘に携わった後、現職。ダイバーシティ&インクルージョン対応を専門とする電通ダイバーシティ・ラボで、アンコンシャス・バイアスとのより良い向き合い方を広めるための体験型企業研修プログラム「アンバス・ダイアログ」を開発しています。

プログラムを開発しています。音楽座ミュージカルが提案する舞台演出メソッドを取り入れ、座学ではない「体験型」にすることで、ネガティブへの「ブレーキ」ではなく、視点を変えて、「コミュニケーションの「アクセラ」として機能できればうれしく思います。

## 「コミュニケーションのアクセラ」に

電通ダイバーシティ・ラボでは、全ての人が自分の心にあるアンコンシャス・バイアスと上手に付き合う方法を理解し「コミュニケーションを加速できる」ように、体験型企業研修プロ



# 男性の育児休業について 考えることは、家族像を描くこと

コネヒト株式会社  
企画戦略室 助産師 筒井 八恵 さん

大事なのは育児の取得ではなく「夫婦で話し、納得し合うこと」

コロナ禍の影響もあり、場所や時間に制限されない働き方の浸透が進みました。同時に、家庭と仕事との境界線は心理的にも物理的にも急速に近接化してきているのが事実です。

そのような中、「男性の育児休業」(※以下、男性育児)は引き続き社会の注目を集めています。しかし、その議論の多くは「取ること」「自体を目的にしているように感じます」。

当社と日本財団との共同調査(有効回答数=3,992)は、「夫に育児を取得してほしいと思う人」は約半数に留まり、妻が皆「夫に育児を取得してほしい」とは思っていないことを明らかにしました。一方、「夫の育児に対す

る妻の満足度が高ければ、子育てをする上での孤独感が減る」という調査結果も出ています。

育児は「取ること」が目的ではないはずです。そもそも取る必要があるのか、取るとしたらいつがよいか、育児中をどう過ごすか、それらを夫婦で話し合い、互いに納得して決断することにこそ意味があるのです。育児取得以外にも、有給取得、定時退社の日を増やす、フレックスタイム制を使う等、家族のための時間を生み出す方法があります。

「新たに家族が増えること」はとても喜ばしいことですし、赤ちゃんと過ごす時間は人生の中でもほんの一瞬です。その喜びを家族で最大化するためには、時間の量だけでなく、質にも目を向けるべきでしょう。

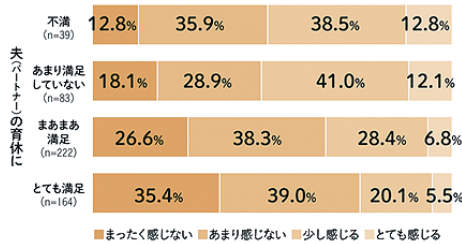


## プロフィール

佐賀大医学部卒。在学中、中高生向けジェンダー・セクシュアリティ教育、医療学生団体創設等を行う。卒業後、日本赤十字社医療センターに助産師として入職。数百組への専門ケア・家族サポートを通じ、対象者を取り巻く就業環境に着目。HR企業で人事戦略立案等を経て、現職で官民連携政策企画、自治体・企業における男性育児を切り口にしたオンラインセミナー講師等を行う。

## 育児の満足度が高ければ 子育てをする上での孤独感が減る

Q.現在、あなたは育児をしていて「孤立している」「孤独である」と感じていますか？



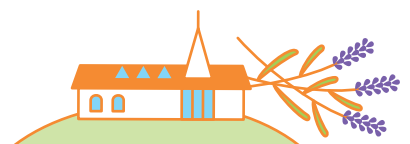
※「夫(パートナー)は育児を取得しましたか?」に「取得した」と回答した方。n=508、単一回答  
n:有効回答数

## 「コロナ禍中に高まった 家族の重要性」という意識

当社が行った全国調査によると、コロナ禍中に高まった意識の変化は回答数が多かったものから順に、①家族の重要性②社会とのつながりの重要性③仕事の重要性、という結果でした。この環境下において、家族をより重要

視する人たちは確実に増えています。

そして今、より大切なのは夫婦間のコミュニケーションなのではないでしょうか。育児取得について話すことは、未来の家族像、子どもの日々の行動や未来、仕事の平衡、それらを実現するために夫婦でどのように手を取り合っていくのか共に考え、見出し、改めることです。忙しい日々の合間、改めて話すのはちょっと気恥ずかしいですよ。でも、家族像を二人で共有し、並走する道のりには、きっと新たな気付きやわくわくがあると思います。早速今日からもしくは週末から、二人で話し合う時間を30分だけでも確保してみませんか？



# 生活困難地域で 母親を支える

大阪大学大学院 教授 村上 靖彦 さん



## プロフィール

大阪大学人間科学研究科教授  
著書に『母親の孤独から回復する 虐待のグループワーク実践に学ぶ』(2017、講談社叢書メチエ)、『在宅無限大 訪問看護師がみた生と死』(医学書院シリーズ「ケアをひらく」)、『子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援』(2021、世界思想社)、『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』(2021、中公新書)、他。

大阪市西成区での子育て支援の現場を数年間調査するなかで、地域の女性たちの生活に沿ったサポートの重要性について学んできました。西成区は生活保護率が23%(北部地域は40%ほどと言われる)であり、生活の困難を抱える家庭が多く存在しています。私が参加している要保護児童対策地域協議会(要対協)でも、ひとり親家庭や、多数のきょうだいを抱えるステップファミリー(※1)の多くが支援対象となっています(西成区は中学校区ごと6つの要対協がある)。

## 母親が抱える困難

生活困難な家庭で起きたトラブルにおいては、身体的虐待やネグレクト(※2)といわれて、母親が非難される対象になりかねない状況にあります。

しかしこの地域の支援者は、「虐待」「ネグレクト」が、母親が抱える困難を現していることを理解されており、それを見逃さない努力をしています。

例えば不登校の子どもや保育園に

登園できない子どもがいたとします。精神疾患で服薬をしているときに、起床が難しく準備ができないのかもかもしれませんし、精神疾患の背景には、パートナーから受けていた暴力や、貧困に由来する生活の不安があるのかもかもしれません。だとすると、親を「指導」したとしても何もならないのは自明です。

暴力から助け出すこと、保育園の送り迎え、役所の窓口などに同行支援すること、ときには部屋の掃除にいたる、関係を作った上でニーズに沿った細かい生活のサポートをすることこそが、「虐待」の最大の抑止力になります。こういった支援へつなげるために、ニーズへの感受性、ひそかなSOSへの感受性こそが大事になってくると推察されます。そして子どもを守るためにも母親へのサポートは必然です。

## 孤立からの脱却

生活の支援で、もう一つ鍵になっているのは孤立からの脱却です。困難な

状況にある多くの女性たちは孤立しているという現状があります。たとえば他県から転入してきたものの地域と関係を築けず、生活保護を受けて閉じこもっている人がいます。そういう人が安全な方法でつながりを作る場所が必要です。

西成区では「ごどもの里や」にしたり☆子ども食堂」といった、そのような女性が子どもに促されて人の縁を作る場所としても機能しています。つまり地域でのアウトリーチ(※3)に根ざした形で、居場所が子どもにも大人にもあることが西成の強みであり、他地域のモデルとなる活動をしています。

- ※1 ステップファミリー…少なくとも一親が血縁関係のない子どもを含む家族形態
- ※2 ネグレクト…育児放棄
- ※3 アウトリーチ…支援が届いていない人に対して支援を届けられるしくみ

## ひょうご女性サポートホットライン ～ここふれ～

コロナ禍の中でも女性が生きることをあきらめないよう、女性が抱える生活上の悩みや就労に向けたアドバイス、専門機関の紹介、必要に応じた医師等の専門家による相談を実施しています。

電話相談

TEL:0120-62-3588

火～土曜日 9:00～12:00

※必要に応じ、対面相談も実施します。

対象者

県内在住の女性県民



# シングルマザーと子どもの居場所 「WACCA(わっか)」

代表 茂木 美知子 さん

認定NPO法人ウイメンズネット。こつべでは、DV被害を受けた女性の相談や支援を行い、シングルマザーになる女性たちも多いことから、シングルマザーと子どもたちのイベントや、集まって学ぶ会、おしゃべり会などを行っています。

その経緯から、2013年シングルマザーや子どもの居場所として「WACCA(わっか)」を設立しました。

## ふらっと立ち寄れる居場所

開設より年々利用者が増えたことから、2020年6月に拠点を増やし、シングルマザーや子どもたちの拠点として「WACCA b(ふらっと)」をオープンしました。

主な活動は

- 気軽に立ち寄れる居場所
- シングルマザーの様々な相談
- 母子家庭の親の学習支援

● 食料の支援を行うフードパントリーなどを行っています。

今まで八年間活動していた場所を拠点として「WACCA+(ぷらす)」として「女性のなやみ相談」や「無料法律相談」などの専門相談やオープンダイアローグ※という形で話を聴く場も設けています。また、夕方から週3回母子家庭の子どもへの無料学習支援の場「WACCA塾」を開いています。



## コロナ禍で必要とされること

新型コロナウイルス感染症が拡がり、外出などもままならなくなると、不安に駆られ、孤立感が深まります。特に、また仕事先などでコロナに感染したら、子供はどうなるのだろうかという不安を抱えたりしています。実家や友達などとの関係が「コロナにや



疎遠になり、どこにも行けず、親子で煮詰まってしまうとか、親子げんかが増えたとかの話も聞きます。

仕事を失ったとか、経済的に困窮の度合いがさらに深刻になったということも訴えられています。

WACCAは困ったときに安心して相談できる場所、仲間づくりができる場所を作っています。

## これからの活動

コロナの影響で先の見えない状況ではありますが、いつも開けて、待っていてくれる人がいるということ、孤立を和らげることができると思っています。これからも息長く、支援を続けていきたいと思っています。

※当事者、家族、当事者を支援するすべての人がミーティングを行い、何度も対話を繰り返す方法

認定NPO法人 女性と子ども支援センター  
ウイメンズネット・Jつな WACCA  
<https://waccac27.wixsite.com/wacca>



## パパいや、めろん 男が子育てして みつけた17の知恵

本書は、著者が子育ての経験を振り返り、男性の子育てについてアドバイスしたエッセーです。

男の育児や保活、夫婦間トラブルへの予防策など、今の社会における子育ての面白さや難しさといった内容が盛り込まれています。

子育ての失敗談と成功談も踏まえられ、子育て経験者なら何度もうなずいてしまう場面が満載です。

「男が出産前に買っべき三種の神器SSD」「離婚に至る4つの大罪」

小見出しやタイトルだけでも興味がわき、エピソードには思わず「くすっ」と笑ってしまう、面白くて一機に読んでしまえる一冊です。



海猫沢めろん(著)  
発行所/講談社

# 早期発見・ 早期治療！

歌手 伍代 夏子 さん



## プロフィール

1987年CBSソニーレコード(現ソニー・ミュージックレコーズ)より「戻り川」でデビュー。翌1988年に「第21回日本有線大賞」と「第21回全日本有線放送大賞」の最優秀新人賞を、演歌では初の快挙となる同時受賞。1990年には「忍ぶ雨」でNHK紅白歌合戦に初出場。最新シングル「雪中相合傘」が好評発売中!2012年厚生労働省より「肝炎対策特別大使」を拝命。克服した自身の経験をもとに、肝炎の正しい知識と検査受験を広く呼びかけている。

「ご自身もC型肝炎治療の経験をされ、厚生労働省の「知って、肝炎プロジェクト」の特別大使を務めておられる伍代さんにお話を伺いました。」

**Q** C型肝炎と分かった時の心境

**A** 「C型肝炎ってなに??」

この病気を知らなかったので調べました。輸血をした事もなく、なぜ、いつ感染したのかもわからず、半信半疑でした。「まさか、私にかぎって」「大丈夫。そのうち治るだろう」と考えていました。

**Q** C型肝炎の治療について

**A** 当時のインターフェロンでの治療は副作用も強く、ウイルスの数は減らせても撲滅は無理でした。

幸いまだ治療を施すほどでもなく、月1回のエコーと採血だけでしばらく経過観察で過ごしました。

その後、ペグインターフェロンとリバビリンの併用という新しい治療

法ができ、副作用は少しあるものの、完治の確率も高いというので治療する事にしました。

この治療法は、とにかく長い期間、治療をしなければならず、私は約一年半の間、治療を受けました。毎週なるべく同じ曜日、同じ時間に注射を打ちに通院しなければならなかったため、スケジュールのやりくりも大変で、都合がつかない時には地方の病院に注射をお願いする事もありました。家族やスタッフ、周りの皆の協力でなんとか治療を続けられました。そして治療には家族の支えがないと無理だということを実感しました。

**Q** 特別大使としての意気込み

**A** C型肝炎に罹患していることを知らないという事は恐ろしい事です。

今ではC型肝炎はもはや撲滅できる病気で、飲み薬だけで治る時代です。そのためには早期発見・早期治療がとても大切です。

まずはこの病気を知っていただき、ウイルス検査の重要性を伝えたいです。そのためにも、健康診断の血液検査では、C型肝炎ウイルス検査はまだオプションですが、いざれ組み込まれることを願っています。

**Q** 県民の皆様へメッセージ

**A** 皆さんの血液の中に、もしかしたらC型肝炎ウイルスが潜んでいるかもしれません。

ウイルスがいてもはじめは何も症状がなく気づかないまま進行し、やがては肝硬変や肝がんになるかもしれません。手遅れになる前に一度ウイルス検査を受けてみませんか?

## 知って、肝炎

【知って、肝炎プロジェクト】  
URL  
<https://www.kanen.org/>

## 映画紹介



©2020-LES FILMS DU KIOSQUE - FRANCE 3 CINEMA  
- ORANGE STUDIO - UMEDA

## 『5月の花嫁学校』

1968年フランス、旧来の父権的な制度や価値に異を唱える若者の運動に始まった5月革命の波は、アルザスのどかな田園地帯にも及んでいました。

主に貧しい家庭の娘が花嫁修業を行うヴァン・デル・ベック家政学校では入学者が激減。夫に付き従う「良き妻」となることこそ女の幸せと信じる校長のポーレットは指導に熱を上げますが、新入生は上の空。さらに経営者である夫が急死。殆ど黙って部屋にいるだけの無害な男と思っていたら、賭け事で莫大な借金のあることがわかります。破産の危機に直面したポーレットでしたが、昔の恋人に窮地を救われ、経営者として奮闘するなかで旧来の女性の境遇に疑問を抱き始めます。

ポーレットが自由で自立した強い自己に目覚めるきっかけは恋でした。恋愛と社会進出はともに、女性の自己決定権の象徴だったのです。翻って「良き妻」を押しつける男性が未だにいるとしたら、彼は恋心を知らないか、忘れたのかもかもしれません。

- 監督: マルタン・プロヴォ
- 2020年/フランス/109分
- 配給: アルパトロス・フィルム
- シネリーブル神戸で公開予定
- お問い合わせは、078(334)2126



## 「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～



- 募集部門：小説・随想（手記・作文を含む）・詩・創作童話
- 応募条件：兵庫県内に在住、在勤、在学の方
- 応募作品：インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品  
 ■詳細については、協会ホームページをご覧になるか、お電話（下記参照）でお尋ねください。
- 応募方法：郵送に限ります。
- 募集期間：令和3年6月1日(火)～9月10日(金)まで（消印有効）

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
 (公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係



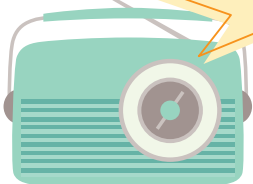
## イベント情報

タイトル	日時	内容等	場所	問い合わせ等
加古川市 人権学習 専門講座	第1回 6月12日(土) 10:00～12:00	第1回6月12日・・・「同和問題」 講師:奥田 均さん (近畿大学人権問題研究所)	加古川市総合福祉会館 2階大ホール 加古川市加古川町寺家町 177-12 ※JR加古川駅から 南西へ徒歩100m	加古川市人権文化センター TEL 079(451)5029 FAX 079(426)0062 ※事前申込要 (市外の方は電話申込)
	第2回 6月19日(土) 10:00～	第2回6月19日・・・「同和問題」 講師:奥田 均さん (近畿大学人権問題研究所)		
	第3回 6月26日(土) 10:00～12:00	第3回6月26日 ・・・「超高齢化社会とひきこもり (8050問題)」 講師:助野慎一郎さん (兵庫県人権啓発協会)		
	第4回 7月10日(土) 10:00～12:00	第4回7月10日 ・・・「超高齢化社会とひきこもり (8050問題)」 講師:生田周司さん (兵庫県人権啓発協会)		

ラジオ関西

### 「谷五郎の笑って暮らそう」

(毎週火曜日10:00～13:00)で、  
12:30頃から「きずな」の記事等を  
紹介しています。



HALF TIME



「ひょうご男女いきいきプラン2025～女性に選ばれる活力ある兵庫を目指して～」が策定され、男女がともに、いつでも、どこでも、いきいきと生活できる社会(=男女共同参画社会)の実現を目指した取り組みが進められます。

女性がいきいきと能力を発揮して働くためには働くための環境整備と職場での同僚の理解が不可欠だと実感しています。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

兵庫県人権啓発協会

検索



(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
 TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp